

Young Officials' Camp 2012 参加報告書

稲田 篤

日程

8月10日（金）

実技1 「スリーパーソン・メカニクス」

講義I 「English Communication への取り組み」

講義II 「ルールについて」

講義III 「ルールについて」

8月11日（土）

実技2 高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

講義IV 「Mechanics---2persons, 3persons」

8月12日（日）

実技3 高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

講習内容

8月10日（金）

実技1 「スリーパーソン・メカニクス」

Petr Sudek 氏

・ジャンプボールについて

「fast, high, straight」

アンパイアは異常があれば必ず止める→審判がゲームに集中している証拠

試合中1度しかないがとても重要、ゴール下から練習すること

・ファールのコールの仕方

①手を上げて選手を指す ※ここで必要のないジェスチャーをする人が多い

②走ってオフィシャルに見えるところまで行く

③番号・ファールの種類・次の流れを示す ※全ての人がルールに精通しているわけではない。誰もが分かるように顔の前でコールをする。

・アウト・オブ・バウンズ

手を上げてディレクション ※余計なことをせずにシンプルに。それが1番分かりやすい

・リード

プレイを見ながら戻ること

エンドラインから1・2歩の距離 ※下がりすぎはよくない→右に行きにくい

- ・トレイル

3番エリアでダブルチームが起こった時にその場にいること ※2パーソンの弱点

講義 I 「English Communication への取り組み」

野村 孝一 国際渉外部副委員長

- ・コミュニケーションを取ろうとする姿勢、受け身にまわらず1歩踏み込む
- ・意思表示をしよう
表情・・・分かってるの？ 分かってるけど表情に出せないの？
反応・・・英語が分からないの？ 答えが分からないの？ 説明の意味が分からないの？
「あなたが何が分からないのかが分からない」
- ・「何でオフフェンスファール吹いたの？」
→「～という理由で、～しました。」
ディスカッション出来る人が求められている
- ・あなたの意見は何ですか？→それを表現することが出来ていますか？
自分を知ること

講義 II 「ルールについて」 講義 III 「ルールについて」

平野 彰夫 規則委員長

- ・アンスポーツマンライクファール・・・ハードコンタクト、ボールにプレイしていない、
ワインド・アップ・モーション（腕を振り上げて強く下ろす動き）→アンスポになるこ
とが多いが常にではない
- ・ジャンプ・ボール
ラインの近くに足を置く
ボールが最高点に達してからタップ
トスアップが曲がったり低かったらやり直し
- ・シグナルの重要性
正確な合図（特にゲームクロックを止める合図＝頭上に上げる）
- ・コミュニケーションツールとしてのボディランゲージ○
全体に向けては×
- ・**Boxing in**
トランジションの時にどれだけ意識できるか
- ・ストレートラインの判定はしてはいけない
Space watching, Always moving, Penetrate を必ず行う
- ・リードオフィシャル
速くポジションに入る

ローポストのプレイヤーに乱暴なプレイをさせない
オフボールのプレイを判定する
ドライブを受ける

・手の使い方について

ディフェンスが両手でオフenseに触れる ※ポストプレイ、フラッシュの時など

It is always a foul.

8月11日（土）

実技2 高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

男子「都立足立」－「越谷」

主審：稲田 篤

副審：折目 大河さん（千葉県）

プレゲームカンファレンスで話をしたこと

- ・2人の視野の分担について
- ・最初5分で基準を示すこと
- ・必ず二人でコミュニケーションを取りながら進行すること

担当講師：小澤 勤さん 吉田 憲生さん 平野 彰夫さん

指導して頂いた点

- ・リードがエンドラインに近い
- ・トレイルが高い、ペネトレイトを
- ・ボール中心に見てしまっている
- ・ストレートラインの判定をしない→常にスペースを求めて動く
- ・2人の協力を→責任エリアを明確に
- ・50センチでもいいから常に動き続ける
- ・いい位置を求めて動くこと→正しい判定

女子「小山西」－「春日部東」

主審：稲田 篤

副審：正木 あずささん（山梨県）

プレゲームカンファレンスで話をしたこと（2人の協力）

- ・2人の視野の分担について
 - ・・・ノートを使って具体的に確認をした、リードが右に来た時のトレイルの見方について、3番と4番の辺りの視野の分担について

担当講師：Petr Sudek 氏 小澤 勤さん 吉田 憲生さん

指導して頂いた点

- ・トレイル（ボール運び）では、何か特別なことがない限りはあまり右側に行かなくていい
↓
スペースを求めて動くことは間違っていない
- ・リードで右側にプレイを見に行く
⇒すぐ戻った方がいい時と、右側でそのままプレイを見る方がいい時があるので、その判断をする
- ・二人の協力が意識された動きが多くあったので、その点がよかった
(特に、3・4番の位置にボールがある時)

講義IV「Mechanics---2persons, 3persons」

Petr Sudek 氏

- ・ルールとメカニック
ルール⇔メカニック（＝ルールの使い方）
- ・プレイを見るために「動く」こと
ゲーム主任に「よく動いていた」と評価されるために動くのではなく、プレイを見るため、よりよいポジションを見つけるため、見る必要のあるものを見るために「動く」
- ・トレイルの責任
ショットとリバウンドプレイに関しては、「必ず」ペネトレイトをする
- ・the act of shooting
お客さんが最も楽しみにしているもの
「You can't miss in the act of shooting!」
- ・Don't stay under the ring!
- ・「1歩前に」
精神的に、肉体的に
- ・判定
先に位置取りをして判定する、動きながら判定しない
- ・トランジション
ボクシングインを意識しながら
トレイルは常にリードを助けなければならない
- ・2人の協力
24秒
ラストショット
アウトオブバウンズ

3ポイント

- ・スローイン

パートナーは準備できていますか？チームファールは大丈夫ですか？交代、タイムアウトはありませんか？24秒は？ゲームクロックが止まっているときに焦る必要は全くない、確認すべきことを確認してから

- ・3パーソン

ブラインドスポットをカバーするためにある

もっとも大切なこと＝3人のコミュニケーション

LDCはありえない

- ・レポートはテーブルオフィシャルとコミュニケーションがとれる距離で行う

- ・ルールブックにあるシグナルをしてください

- ・審判は「show」ではありません。

試合5分後に「誰が審判だったの？」と言われるレフリーが最もよい審判だと思います。

8月12日（日）

実技3 高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

女子「都立駒場」－「新総和国」

主審：稲田 篤

副審：逢坂 麻衣さん（福岡県）

プレゲームカンファレンスで話をしたこと（2人の協力）

- ・2人の視野の分担について

・・・ノートを使って具体的に確認をした、リードが右に来た時のトレイルの見方について、3番と4番の辺りの視野の分担について

（ゲーム後感じたこと）

- ・トレイルでペネトレイトを意識することが出来た→判定につながった

・ポストプレイの手の使い方について基準を示したかったが、なかなか示すことが出来なかった。ディフェンスが相手のシリンダーを侵していたり、オフェンスが自分に有利なスペースを作るために自分のシリンダーを越えて相手を手で押さえているプレイがあった。

・2人の協力は少し意識出来るようになった。相手レフリーの位置を見て、自分が見るべきスペースを考えることが出来たので、足が動いてトレイルでペネトレイトをすることが出来た。

<全体を通して感じたこと>

1つ目に、自分の意見を持ち、それをきちんと伝えることの重要性を強く感じました。求められていることは「ディスカッションが出来ること」であり、バスケットボールの審判に限られたことではないと思います。普段から、自分の意見・考えとその根拠を持つこと、また自分よがりの考えになるのではなく、他の人の意見もしっかりと取り入れながら生活していくことが重要だと感じました。オン・ザ・コートで発揮できるものは「自分」であり、それ以上でもそれ以下でもないので、その自分を日ごろどれだけ高めていけるか、誰かに見られている、評価されているからではなくどれだけ自分で求めていけるかが大切なことだと思いました。

2つ目に審判は2人（3人）の協力で行うものであるということを再確認することが出来ました。初対面の人と審判を行うことは、普段鳥取県内で顔見知りの人と審判をすることとは少し違う部分があると思いました。実技研修で、ハーフゲームを3本吹かせて頂きましたが、1本目のゲームは2人の協力がうまくいきませんでした。また修正しようと思っても相手の方がどのような方で、何をどのように感じているかが分からなかったので、2人で修正することもできませんでした。そのゲームから反省をし、2ゲーム目の前は、お互いの自己紹介や、各県での審判の様子、審判の課題などたくさん話をしてからゲームに臨むようにしました。またノートを使って具体的な二人の動き方についても考え方を確認し、ゲームに入りました。そのゲームでは2人の協力という点では改善することができましたし、気になることが出てきた時も、2人で確認を取りあってゲームを進めていくことが出来ました。協力して審判を行うためにはプレゲームカンファレンスをしっかりすることが重要だと感じましたし、同時にお互いのことを知るということも重要だと思いました。お互いのことを知るためには、まず自分のことをきちんと説明できることが必要だと思います。自分のことを説明するためには自分のことを知らなければなりません。それから、自分を表現することも必要です。1つ目のこととつながるかもしれませんが、自分の意見・考えを持ち、それを表現すること、相手の意見・考えを受け止めることでお互いに知り合うことができ、協力して審判をしていくことが出来ると思います。協力して審判をするためには、確かにメカニクはとても重要だし、それはきちんとマニュアルを読んで確認しなければなりません。しかし今回の研修で感じたことはそれだけでは協力していくことはできないということです。お互いの考え方や感じ方を知ること→そのためのコミュニケーションをすること→コミュニケーションをするために自分の意見・考えを持ち、相手の意見・考えを大切にすること、このようなことが出来れば、試合中問題が起きた時も2人で協力して解決に向けて行動できると思います。

全体を通して感じたことを2点挙げました。共通していることは、「自分」の意見・考えを持つこと、それを相手に伝えること、相手の意見・考えを大切にすることです。「自分」の意見・考えを持つというのは当たり前のことですが、それが単なる思いつきや、ひとりよがりな考え方ではいけないと思いました。自分の経験やそこに至るまでの裏付けがなけ

れば「自分」の意見・考えが単なる「わがまま」になってしまうと思います。また相手の意見・考えを大切にする姿勢を持つことで、自分の意見・考えを持つに至る過程も変わっていくと思いました。このようにして持った自分の意見・考えだからこそ、それを相手に伝えることが出来るのではないかと考えました。裏付けがきちんとあれば、それを後は自信を持って伝えるだけだと思います。

このようなことが直接審判に関係あるかどうかは分かりませんが、少なくとも自分の意見・考えを持つ＝判定、裏付けを持つ＝～という理由で・・・である、それを相手に伝える＝笛を思いきり鳴らすだと自分では結びつけて、これから審判をしていこうと思います。また左側の方は、審判をする時だけでは身につかない力だと思うので、仕事の中で、生活の中で実践していきたいです。これが YOC を通して感じたことです。

YOC とは直接関係ありませんが・・・YOC でこのようなことを感じて、自分の意見・考えをしっかりと持とうと思って、8月18日・19日に行われた、全国高専大会で審判をさせて頂きました。そこで勉強させて頂いたことと、YOC で感じたこと、勉強させて頂いたことには共通点が多くあるのではないかと思います、今回 YOC で勉強させて頂いたことを大切にしていきたいと強く思いました。

講師の Petr Sudek 氏の言葉によると、試合終了5分後に、「今日のレフリーは誰だったの？」と言われるレフリーが最高のレフリーだそうです。自分の意見・考えにきちんとした裏付けがあり、それを相手（選手やベンチなど）に自信を持って伝えるということ、すなわち「自分」を持つということと、レフリーというのはどこまでいっても「裏方」であるということとは、バランスを保つのがとても難しいことだと思います。でもそのバランスを取ることが最も大切なことだと思うので、そこについてこれからしっかり勉強していきたいと思います。

最後に田中真審判長をはじめ、多くの方にお世話になり今回の研修に参加させて頂くことが出来ました。本当にありがとうございました。今回学んだことをこれからも続けていき、お伝えしていければと思います。

ありがとうございました。